

成果の説明書

(氏名) 黒川基裕	(学部) 地域政策学部
1 重要事項	
1.1 研究成果	
<p>日本学術振興会・科学研究費・基盤研究 (B)「アグリビジネス能力向上によるアフリカ農村部の包摂的開発可能性の研究」(研究代表: 渡邊松男・新潟県立大学)においては、プロジェクトの2年度目にあたり、昨年度の現地基礎調査を踏まえてガーナ共和国での実証実験などを企画していたが、渡航制限により実施に至らなかった。一方、共同研究者や現地研究協力者とデザイン系学生の能力測定方法、現地でのテストマーケティングの実施方法などの基礎研究を推進し、次年度以降の実査に向けての分析枠組みを確立した。</p> <p>BOP 製品の商品企画・開発研究、その他デザイン研究については、昨年度に引き続き、ミャンマーをフィールドとした無煙クッキングストーブの企画・開発を推進した。他の研究テーマと同様に現地調査を実施できなかったが、今年度からペレット燃料に適した新モデルの開発を加速させ、2つのプロトタイプを設計し、30回以上の実験を実施した。</p> <p>浄水器つき自転車のプロジェクトにおいては、ヒ素除去に資するフィルターの研究と同時に現地でのビジネスモデルを検討し、今後の実証実験に大きく近づいた。来年度より群馬県産業技術センターとの共同研究体制を確立し、浄水技術の確立とビジネスモデル化研究を並行して推進することで合意している。</p> <p>尚、これまでの無煙クッキングストーブの開発手法について、下記の成果を報告した。</p> <p>黒川基裕 (2020)「フィールド主導型アプローチによる BOP 製品の商品企画: ミャンマー・トワンテ地域におけるクッキングストーブの導入」国際ビジネス研究学会・第 27 回全国大会</p>	
1.2 社会貢献	
<p>上記の無煙クッキングストーブのプロジェクトについては、山崎製作所の支援を継続的に受けており、産学連携体制が強化されている。また、新たに浄水器つき自転車のプロジェクトにおいては群馬県産業技術センターと協働することで、産官学連携のスキームも確立していく。いずれのプロジェクトの成果も途上国の BOP グループに資するものであり、普及段階を見越して現地 NGO、投資家からの引き合いに対応している。</p>	
1.3 教育活動	
<p>前期を中心にオンラインでの演習指導となったが、デザイン能力構築のための教材を新たに3種類開発し、オンライン講義にも耐えうるものとした。また、演習とは別に無煙クッキングストーブ、浄水器つき自転車のプロジェクトグループは、ガイドラインに準じた感染予防措置を徹底的に遵守しながら、独自の研究活動を推進した。</p> <p>商品企画・デザイン力の強化を目指していた途上国のお土産商材開発のプロジェクト</p>	

グループは、現地活動がかなわない中で能力構築を進めるため、デザインコンペへの参画を続けた。年度中に延べ 17 名の学生が 3 つのデザインコンペに作品を出展した。

2 その他の事項

前年度に引き続き、学内委員として国際交流委員を務めた。

3 次年度以降の計画・抱負

無煙クッキングストーブの開発においては、籾殻の燃料化についてもトライを開始できるようにしたい。また新しいプロトタイプを用いた現地での実証実験を実現したい。

浄水器つき自転車の開発については、ターゲットとする素材を用いたフィルターの開発を中心に、浄水機能を持つボトルの確立を完了したい。

デザイン研究としては、東南アジア地域の消費者行動調査を改めて実施し、ローカライズ手法のマニュアル化を目指したい。

アフリカのアグリビジネス研究では、引き続き渡航が困難であることが想定されるため、商品企画に関するオンライン教材を作成し、遠隔でも実証実験を実施できるようにしたい。